

明新館通信

「日日新 又日新」(日日新たに 又日に新たなれ)

平成23年度

第2号

(通巻38号)

山形県立上山明新館高等学校
山形県上山市仙石 650 番地
☎023(672)1700
平成23年6月8日(水)発行

私たちにできること 東日本大震災ボランティア

昨年度末に東日本大震災が発生した直後、停電や交通機関のマヒなどでしばらくの間家庭学習日が続きました。その間、生徒会役員を中心に「私たちにできることはないか」と相談し、登校が再開された3月24日から4月下旬までボランティア活動に取り組みました。

義援金募金活動では生徒会役員と女子バレーボール部員が、校内のほかに、かみのやま温泉駅、カミン前で募金活動を展開。旧2年8組や図書委員会からの義援金と合わせ、「山新放送愛の事業団」を通して寄付。

P.T.Aでも、総会が開催された4月29日に義援金募金活動を実施し、P.T.A会計からの拠出金と合わせて「全国高等学校P.T.A連合会」を通して寄付しました。また、被災された方々が避難した「上山市体育文化センター」では、

J.R.C委員会と生徒会役員、有志生徒が、支援物資の運搬や仕分け作業を行ったり、子どもたちの遊び相手や「上山ソプロチミスト」の皆さんと炊き出しを行ったりするなど、義援金募金活動と合わせて、のべ124名がボランティア活動に取り組みました。

生徒募金活動義援金
104,869円
P.T.A募金活動義援金
110,720円
ご協力ありがとうございました



地域貢献・地域連携活動 ＝特色ある高校づくり推進事業＝

本校では「特色ある高校づくり推進事業」3年目の今年度も、地域貢献・地域連携活動を展開します。東日本大震災ボランティア活動のほかにこれまで活動した主なものを紹介します。

- 「上山城まつり春のお茶会」茶道部 4月30日(土) 上山城内の野外でお茶を振る舞いました。高校生による思いがけないもてなしに、大勢の観光客の皆さんが喜んでくださいました。
- 「食用ホオズキの苗販売」農業クラブ食用ホオズキ研究班 5月7日(土)～8日(日) 上山市山元地区で以前から栽培されていた食用ほおずきを、地域の資源として特産化しようと、「NPO法人上山まちづくり塾」と連携して取り組んでいます。2日間で1,000株を市民の皆さんに販売しました。
- 「グループホーム笑顔 訪問演奏」吹奏楽部 5月29日(日) 老人施設「グループホーム笑顔」を訪問し、「時代劇メドレー」「上を向いて歩こう」「見上げてごらん夜の星を」「演歌メドレー」などを演奏。お年寄りの皆さんに楽しんでいただきました。
- 「食用ほおずきの定植」食料生産科食用ホオズキ研究班 5月29日(日) 上山市、NPO法人上山まちづくり塾と連携し、「ヴェンテンガルテン上山市民農園」に食用ほおずきの苗を定植しました。
- 「蔵王長寿園 ボランティア茶会」茶道部 6月3日(金) 養護老人ホーム「蔵王長寿園」で、お年寄りの皆さんにお手前を披露しました。稽古の成果を披露し、とても喜んでいただくことができました。



訪問演奏



食用ホオズキ苗販売



ボランティア茶会

やればできる！～母からもらった命と勇気～ 『平成23年度マナーアップ講話』 講師 伊藤あさみ 氏

5月31日(火)、「平成23年度マナーアップ講話」を開催しました。講師の伊藤あさみさんは両手が不自由ですが、両足を使って編み物やリンゴの皮むき、箸を使ったりなど、生活のひとこまを見せてくださいました。伊藤さんは人に頼ることなく子どもを育て、今は7人家族の食事の準備や洗濯もひとりですしているそうです。お話の途中に何度も「感謝」という言葉が出てきました。母親と一緒に泣いたこともたくさんあったそうですが、「命と勇気」をくれた母親、そして家族の愛情を感じることができました。「あきらめたらそれまで、何もできない。夢と希望がなければそのまま終わってしまう。人間はひとつひとつ夢を持つのが自分の道」という伊藤さんに、命の尊さと感謝する気持ち、そして勇気を与えていただきました。



プロフィール：八幡町(現酒田市)生まれ。リトル氏病という難病のため両手が使えないが、両足を使い日常生活を送っている。主に県内の小中学校や母親を対象に、講演活動を行っている。天童市在住。天童市障がい者福祉協会山口支部長。

伊藤あさみさんの講演をお聞きして（生徒の感想より）

今回、伊藤あさみさんの講演を聞くことができ、私は人間としてひとつ成長することができたと思います。病気のために手が使えず、とても苦しい生活をしてきたあさみさんの「やればできる」「あきらめない気持ち」というのは、自分にとってまだ足りないものだと思感しました。あさみさんの言葉をいつまでも忘れずに、これから周りの人に感謝し、いろんなことにチャレンジして生活していきたいと思います。(1年男子)

伊藤あさみさんのお話を聞いて、何ごともあきらめないでやるのがすごく大切なことだと改めて感じました。私は今、あまり自ら挑戦しなかったり、難しいことがあるとあきらめてしまっていたけれど、あきらめずにやればきっとできると思いました。そして、伊藤あさみさんの今までのつらかった話やあきらめなかった話を伺って、今まで当たり前にしてきたことに感謝しようと思えることができました。(2年女子)

お話をお聞きしながら思わず私も泣いてしまいそうになった。決して同情の涙ではない。自分がとても恵まれている環境にいるのに、そのことに対して感謝の気持ちを持たずにいる自分への後悔の気持ちと、私の母も私を育てるのに苦労し、涙を流させてしまったこともあったのを思い出した上での涙だった。私はあさみさんより不自由のない生活を送れている。だがいつも「自分は何をやってもうまくいかない」などと思い、ひどい時には親を恨んだりすることもあった。今回あさみさんの話をお聞きし、できないのではなく、していないからなのだと考えた。考えを改め、今度からはしっかりと生きていきたいと思う。(3年女子)

田植えをしました

5月27日(金)食料生産科1年生全員が学校の水田(約30アール)に田植えをしました。品種は「はえぬき」で、株間約18センチメートル、条間約30センチメートル、1回で3～5本の苗を植えることなどの説明を受けたあと、水田に向かいました。初めての生徒もいましたが、慣れるにしたがって上手に植えることができました。秋には収穫し、また全員で試食することになっています。



3名が県大会へ(農業クラブ校内意見発表会)

5月25日(水)「農業クラブ校内意見発表会」を開催しました。審査の結果、次の3名が県大会に出場することになりました。

- ・奥山雄太君(2-7)「農業とあこがれ」
- ・式澤史悦君(2-7)「環境を変えるモミガラの可能性」
- ・藤澤光輝君(2-7)「過去の自分と今の自分」



地域に発信 『明新館通信』を回覧

～今年度から～

生徒の通学路に該当する4地区65の隣組、544世帯の住民の皆さんに『明新館通信』を回覧しました。

さっそく地域住民の方から、「嬉しかった」という声とともに、「あさみさんや通マツの学ナー」ご意見を頂戴しました。ありがとうございました。

前田各ごめん下さい。
とて、嬉しく(せんせいに)今年はいよいよ通信を隣組の回覧版で発行いべんと取りまは。念上高教のせよ。明新館に付ておらも一度もあの様子を便利に合の事あり知んてた。毎朝、夕お会いする生徒でも子学生でもありつてくはつてと見のし事。以前とは少し通学の事子も落ちか業ていすつて見れり。幸ひ女子の方が途中で次子口を解てあけを 解解に。と。少し女学生もほいほい。元は。女学生にだけて友人の感想です。